

常福寺の山野辺氏墓所

那珂市歴史民俗資料館



常福寺は徳川家康・家光から寺領 100 石の朱印状を
与えられた。寛永 12 年（1635）には常福寺第 2 世聖岡
の弟子聖聰しょうそうが創設し、家康も徳川家の菩提寺とした芝
増上寺から常陸国浄土宗本山の命を受けた。水戸徳川家
も菩提所として保護した。山野辺義忠は出羽（山形県）
の最上義光の 4 男であったが、家督相続が起こった最上
騒動で岡山藩に預けられた後、徳川家光の命で水戸藩徳
川頼房の家老（1 万石）となり常福寺の檀那となった。境内にある山野辺家歴代の五輪塔墓石
は、山形から村継ぎで運ばれ安置されたという。

【山野辺家略系図】

山野辺^①義忠 — ^②義堅（夫人は初代頼房の女利津） — ^③義清 — ^④義達 — ^⑤義胤 — ^⑥義娶 —
^⑦義風（6 代藩主治保の女雅姫と婚約／病没） — ^⑧義質（主水正と称し治保の弟の子、義質の女は 9 代
斉昭の側室） — ^⑨義観 — ^⑩義正（夫人は斉昭の女祝姫） — ^⑪義藝 — 義禮 — 義智

出典：『那珂市のゆかりの先人たち』P97

^⑨義観は、文政 12 年（1829）10 月に起こった水戸藩主継嗣問題に際して、会沢正志斎や藤
田東湖らと共に斉昭擁立に奔走して成功を収めた。斉昭の信頼を得て天保の藩政改革の推進に
も貢献し、天保 5 年（1834）12 月には、12 万石増封実現のために斉昭の名代として幕府への
交渉の大役に当たり、天保 7 年 5 月には海防総司となって助川海防城主（日立市）として家臣
ら 247 人と土着し、周辺の村々を合わせて 1 万石の知行地を与えられ海岸防備の先頭に立った。

常福寺境内の山野辺家墓石は、^①義忠、^②義堅、義忠の長子（義致）、^④義達、^③義清の夫人、主
水正の二男、同女如幻大童女、同末子理幻大童子、同末女亀百、義質の側室妙薫大姉、主水正
の子真月院殿秋観玉露大童子などである。なお、^⑨義観以降は日立市高鈴町の山野家墓所（日立
市指定史跡）に埋葬されている。

【乳母神地蔵】

山野辺家に仕えていた乳母が、ある時、遊び盛りの殿様の子が誤って井戸に落ちるのを防げ
ず、助け出すこともできなかった。気が狂わんばかりに自
責の念に駆られた乳母は、泣く泣く殿様に向かい「お詫び
の申し上げようもない、私の不徳の戒めとして、わら縄を
かけた観音として生まれ故郷の常福寺に葬っていただけれ
ば、今後の御代の殿様とご出産されるお子についてもお守
り申し上げましょう。」と言上した。殿様はこの真心からの
乳母の心に感じ入り、乳母を許した。乳母の死後は、願
いのように観音様を造り、わら縄をかけて常福寺に乳母神と
して供養された。後世、村人たちは新しい縄を取替え信心
することによって赤児が無事に育つと伝え、今でも信仰す
る人が多い。（『常福寺縁起』より）

